令和3年度 東京都立桜修館中等教育学校 学校経営報告

校長　石崎　規生

1 今年度の取組と自己評価

(1)教育活動への取組と自己評価

＜学習指導＞

【授業時間の確保】学校での授業を基本としながら、感染状況に応じて、Teams を活用したクラス単位のオンライン授業や登校できない生徒のハイブリッド授業を実施し、授業時間を確保した。特に、6年生に関しては、共通テスト直前の感染を避けるため、オンライン授業を活用した。

【授業改善】「授業観察」や「生徒による授業評価」による授業改善、若手教員による研究授業を実施して、年間を通して授業の改善に取り組んだ。また、予備校による授業研修は、今年度はオンラインとなったが、多くの教員が参加した。オンライン授業の影響もあり、教員のICT活用能力が向上し、授業で生かされるようになってきた。

【論理学習】「国語で論理を学ぶ」「数学で論理を学ぶ」は、ティームティーチングで実施し、生徒の論理的な思考力を育成した。一方で、感染予防の観点から従来のようなグループワークが難しく、生徒にとってワクワクする「国論」「数論」とならなかった面もあった。オンラインを通したグループワークなど、一層の工夫が行っていきたい。

【研究論文】5年生の「研究論文」は、今年度も教員が分担して論文指導を担当した。今年度は、客観的なデータ分析に基づいたレベルの高いテーマの研究論文も多く見られた。4年次に大学教授を招いて、事前学習とし、研究論文を作成する際の先行論文の検索の方法や、課題設定、仮説の立て方、仮説の検証など、基礎的な学習を行っていたことが、多種多様なテーマ設定につながったと考えられる。引き続き生徒の質の高い論文作成に向けて、教員の指導力向上を図っていく。

【自学自習・補習・チューター制度】新型コロナ感染症拡大の状況下であるが、可能な限り学校での自習時間とチューター制度を確保した。夏季休業中の補習はエアコン工事等もあったが、オンラインを活用するなどして実施した。昨年度程多くの時間を自宅学習に生徒を取り組ませることはなかった。主体的な学習を進める生徒には、統合型学習支援システム(スタディサプリ)の学習コンテンツを積極的に使用し、より発展的な内容に取り組む様子もあった。

【家庭学習】オンライン学習に慣れたことや、ICTの活用が進み、生徒が主体的に学習する姿勢が身に付いてきた。また、スタディ・サプリの活用も進みつつある。一方で、前期課程での家庭学習時間は2時間以上を求めているが、絶対的な学習時間が不足している生徒が増えてきている可能性があり、家庭学習を促す必要がある。

【読書指導】今年度は、可能な限り図書館を開館するように努め、図書館の活用状況や、図書の貸し出し数は伸びている。目黒パーシモンの八雲図書館等公共図書館も使用できるため、生徒たちに読書に取り組ませる機会は十分にあった。同窓会からの「八雲ヶ丘文庫」活用の提案は、寄贈された書籍はメモリアルルームに保管し、移動式の書庫を購入し、図書館等での閲覧ができるように整備を進めている。学年が進むにつれて、読書量が減少しており、継続的な読書指導が必要である。

【中間期の学習指導対策】コロナ感染症拡大の状況下で、行事や部活動が十分にできないなど、通常と異なる年度であったが、中間期にあたる3年生、4年生は知恵を働かせて「新型コロナ感染症拡大の状況下だからできる学校行事」を企画・実施し、学校の中心的な学年としての役割を果たすことができた。例年であれば3年生においては研修旅行、4年生においては海外語学研修や「ようこそ小学生」といった行事を軸において、生徒たちの意識の向上を図っているが、今年度はこうした行事を延期、中止せざるを得なかった。

【資格・検定等】コロナ状況下で英検等の校内で資格・検定については実施することができなかった。しかし、前期生でテーマに沿った文章を書いて応募するコンクールについては、いくつかの高い成果を上げることができた。

【英語教育の推進】英語教育推進校として、ICTの活用、オンライン英会話を通して、4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく学習した。必要な指導方法等について英語科において今年度も校内研修を実施し、生徒に研修成果を還元することができた。

【主権者教育の推進】後期では公民の授業を中心として、政治活動や選挙に対する意識の高揚を図る取組を行った。前期でも、主権者教育の入門的な題材を取り扱った。

【理数教育の推進】3月にサイエンス・フォーラムをパーシモンホール大ホールで開催することができ

た。

＜進路指導＞

【キャリア教育】新型コロナ感染症拡大の状況下であることから大幅な変更を行った。職場体験（2年）については、事業所の受け入れができないため中止とし、代替としてオンラインで大林組の企業体験を行った。「學（まなび）フォーラム」（4年）は例年と同様にPTAとの共催で実施し、8名の職業人から話を聞き、質疑応答も積極的に行われ、その内容は、PTA広報誌によってまとめられた。一方、同窓会の協力による大学キャンパス見学（3年～5年）は、新型コロナ感染症拡大の状況下で実際にキャンパスを訪問することができないため、オンラインで実施した。

【職場体験学習】新型コロナ感染症拡大の状況下の状況から実施することができなかった。代替の職場体験として、大林組テクノロジーセミナーや、職業人とグループディスカッションを行う行事をオンラインで実施した。

【大学との連携】

東京大学教養学部と協定を締結した教養講座の受講や、京都大学学びコーディネーター事業を実現するなどを継続した。

【志望校検討会の開催】志望校検討会を行い、担任、教科担当、進路指導部を中心に生徒一人一人について、本人の志望、保護者の意向、学力の推移、授業の様子、今後の予想などを検討し、その後の進路指導に役立てた。模試分析会についても例年通り実施し、今年度は特に分析会にファインシステムを直接持ち込み、データに基づく進路指導を教職員に徹底した。本校の教職員は、中学校から異動してきたり、進学校ではない高校から指導してきたりしていることから、誰でも適切な進路指導ができるようなデータ活用を今後も進めていく必要がある。

【長期休業期間の講習】夏季休業期間はエアコンの室内機・室外機の取り換え工事のため教室の使用箇所が制限されたが、進路指導部を中心として講習を組織的に計画し、進路実現のために必要な学力を向上させた。講習においては、教員は入試問題を分析し、積極的に大学受験を視野に入れた講座を開講した。また、6年生の12月から2月までの受験直前の特別指導を実施した。途中新型コロナウイルス感染拡大防止措置によりオンライン授業に切り替えたため、志望者全員が共通テストを受験することができた。

＜生活指導＞

【基本的な生活習慣の確立】オンライン学習期間や時差登校により登校時間を遅くして丸一年が経過し、基本的な生活習慣の崩れを懸念していたが、毎朝の学級活動・ホームルーム実施によって、多くの生徒が通常通りの時間に起床する生活習慣を保つことができた。

【規範意識の育成】大きな問題行動や逸脱行動を起こす生徒は少ないけれども、集団で行動する際にルールやマナーを守ることができないことや、時々自分たちの周囲への注意が不足して迷惑をかけてしまうことなど、配慮が足りない行動が目立つ。集団としての規律を守り、規範意識を育て、社会の一員としての自覚をもたせたい。

【自治活動】生徒の自治活動は自治会や委員会、行事幹部によって、積極的に運営され、リーダーとしての資質、能力を発揮した生徒が多数見られる。

生徒全員が一堂に会して学校行事を実施することができない中で、各行事の幹部が「新型コロナ感染症拡大の状況下だからできないではなく、新型コロナ感染症拡大の状況下だからできることをやる」という代替案を企画立案して実施した。5月には分散のクラスマッチ、9月には分散型でオンラインを活用した記念祭、3月の合唱コンクールは5年生の合唱と過去の動画を視聴する代替案をオンラインで実施した。本校の生徒の創造力、自主性を発揮する機会となった。

【防災教育】新型コロナ感染症拡大の状況下であったことから防災訓練、避難訓練を十分に実施することができなかった。来年度より宿泊防災訓練が形式を変えることから、地域と連携した防災の取組を具体的に計画し、協力体制を構築していくことが課題である。

＜特別活動・部活動＞

【部活動】部活動は年間を通して日数や時間を制限して活動を行った。部活動指導員の活用については、体罰未然防止講習受講などを実施し、会計年度任用職員としての自覚も芽生えつつある。

【国際理解教育】国際理解教育の全体計画の見直しを行った。新型コロナ感染症拡大の状況下であることから、2・3学年の希望者による国内英語合宿は校内で実施した。4学年の希望者による海

外語学研修、5学年のシンガポール海外修学旅行、アメリカの大学を訪問するリーダー研修は中止した。また、ASEAN 生徒受け入れも来日が叶わなかった。1年のグローバル研修（3月）を校内で新たに実施した。来年度は国際理解教育推進班を新たに立ち上げ、新型コロナ感染症拡大の状況も考慮しながらできるだけの行事を実施するよう準備を進める。

【オリンピック・パラリンピック教育】本校が実践している様々な体験や活動を、オリンピック・パラリンピックに関連付けて実施することができた。家庭科の授業において、外部講師による実習授業を実施し、食文化に関する理解を深めることができた。

また、パラリンピック学校連携観戦に136名の生徒が参加し、パラリンピック競技である車いすラグビーを観戦し、異文化や多様性への理解を深め、ボランティアマインド、障がい者スポーツに関して学ぶ契機となった。

＜健康教育・安全教育＞

【特別支援教育】スクールカウンセラー、管理職、養護教諭、学年担任が出席し、定期的に特別支援委員会を開催した。支援の必要な生徒については、SCの助言を受けながら専門の医療機関や区の児童センター等関係機関との連携を図った。精神科の専門医派遣事業を活用して、保護者向けの講演会及び個別相談を実施し理解を深めた。

＜募集・広報活動・地域交流＞

【募集・広報活動】新型コロナ感染症拡大の状況下であることから適性検査解説会はオンラインで行った。学校説明会は、自治会の生徒を中心に学校の説明を行ったところ、参加した奨学生と保護者には好評であった。東京都が毎年実施している合同説明会についても、個別相談をオンラインと新宿高校での対面式とハイブリッドで実施し、広報活動に努めた。また、生徒が、YouTube に学校紹介動画を掲載し、学校の教育活動や進路指導、学校行事の内容の紹介に努めた。

【地域交流】今年度はこれまで地域との交流活動として実施していた氷川神社の清掃を実施することができたが、吹奏楽部が都立大学駅前商店街主催の行事には参加することができなかった。5年生の家庭科の授業で、近隣の幼稚園・保育園で園児との交流は、対面式で実施することができた。

＜学校運営＞

【施設】夏季休業期間を利用し、A 棟、B 棟の普通教室の空調を新しいものに取替工事を行った。渡り廊下の天井補習、火災報知器、多目的ホールの放送設備等、施設・設備の整備に取り組んではいるが、根本的に老朽化が進んでいる校舎の雨漏りや壁のひび割れ等を直すことができず、将来校舎の全面改修を行わなければ、根本的な解決が図れない。

【地域への働きかけ】登下校時の生徒のマナー等についての外部からの意見は少なくなったが、登下校時に道に広がる等の配慮がない行動を取ってしまう生徒がいることから、今後も丁寧な指導を行っていく。

新型コロナ感染症拡大の状況下で、目黒シティカレッジは開講することはできなかった。また、学校開放についても、テニスコートや体育館の開放を実施することはできなかった。

【ライフワーク・バランス】業務の見直し委員会を設置し、業務の効率化と平準化を図った。部活動顧問の割り振り、委員会の整理、引き続きライフワーク・バランスが達成できるように、取組を継続していく。

(2) 重点目標への取組と自己評価

①【進路実現】生徒各自の進路実現に当該学年担任、進路指導部はもとより、組織の総力を挙げて取組んだ。

＜数値目標＞6学年在籍数　146名

難関国立大合格　20名　難関私立大合格　120名

国公立大合格　60名　GMARCH合格　120名

センター試験5教科7科目型受験者　100名以上

うち8割以上得点者　50％以上

＜結果＞　（ ）内は現役数
難関国立大　14(12)
【東京0(0)、京都1(2)、東工7(3)、一橋4(2)、
国公立大学医学部2(2)
難関私立大102(150)
【早38(57)、慶21(34)、上智12(32)、東理31(27)】
国公立大54(53)　GMARCH131(178)
センター試験5教科7科目型受験者　80名
うち8割以上得点者　21%(17名)

＜自己評価＞

大学入試の在り方が変更されるなかで、大学入試共通テストの2年目を迎えた。大学によっては総合型選抜を大きく導入を図っていくことが発表されるなど、桜修館の進学指導の方針の見直しの必要性も生じており、今後進路指導部だけでなく教員研修を通じて、組織的対応が求められる。

大学入試改革だけでなく、コロナ感染症対応の影響を直接受け、修学旅行、学校行事、部活動の試合や発表を経験することができなかった影響により、生徒がリーダーシップを発揮したり、集団の中で活躍し、人間として成長して、進路に対してより前向きに取り組む「チーム桜修館」としての生徒集団の形成が十分にできなかったりしたことにある。「桜修館は団体戦」なので、進路実現も「団体戦」であり、これまでのルーティンとしては、こうした行事や部活動にも積極的に参加し、人間的にも成長して、気持ちを切り替えて進学に積極的な集団を形成し、高い進路実績を実現してきた経緯がある。11期生は予想以上に進路実績を上げることができたが、桜修館のルーティンの中で取り組むことができたならば、さらに高い成果を上げることができた可能性がある。

大学入試共通テストは、数学の問題が長文化するなど思考力型の問題が増えるなど難化したが、桜修館にとってはアドバンテージとなるような改訂であり、全体としての平均値としては、一定の成果を上げることができた。けれども、難関国公立大学に二次試験で、期待された力を発揮することができない生徒もいたのも事実で、桜修館中等教育学校始まって以来初めて東大合格者0名であった。平均値のさらなる上昇だけではなく、難関国公立大学入試を突破できる成績上位層を育てていくことが大きな課題となっている。

ただし、国公立難関大学、医学部の合格者は13名と昨年度を上回っていることから、生徒一人一人は最善を尽くした結果が出ている。一方で、難関私立大学は、文科系志望者の複数学部受験が減って、全体的に合格者数が減少した。

高いレベルで進路実現を図るため、第一志望宣言を実施するなど志望を落とさず志を立てさせること、きめ細かい進路相談や、教科担当者の個別指導対応体制を組織的に取り組んでいくことを、引き続き実践していく。前述したように、データに基づく進路指導を全教職員で取り組むともに、これまでと同様に、学年集団の中に成績下位をつくらず、全体の学力平均値を引き上げていく努力を続けていく。また難関国公立大学に挑戦する成績上位層を育てていくことにも取り組んでいく。

②【中間期の学習指導対策】定期考査や学力推移調査の結果を基に教科と学年で情報を共有し、前期課程で必要な基礎学力を身に付ける指導を個別に行った。また、GTECを活用して英語の能力の伸長も図った。

＜数値目標＞

3年生:学力推移調査におけるB3ゾーン以下の生徒をゼロにする。
4年生:CEFR　A2以上到達　50%以上
5年生:CEFR　B1以上到達　50%以上

＜結果＞

3年生:学力推移調査におけるB3ゾーンの生徒が2名いたので個別に指導中
4年生:CEFR　A2以上到達(GTEC による)リーディング94%
リスニング95%　ライティング94%
5年生:CEFR　B1以上到達(GTEC による)トータル41%

＜自己評価＞

英語学習を通して生徒のいわゆる中だるみ防止のため、目標を持たせ、自ら学ぶ姿勢を維持させた。3 年生は英語力が各学年と比較しても高い学力を維持している。

英語検定に合格状況は全体で216名（うち準1級に16名、2級41名、準2級49名、3級59名）で、コロナの影響もあり昨年より大幅に減少した。

③【家庭学習】家庭学習の効果的に実施して、生徒の学力伸長を図った。

＜数値目標＞　前期課程：　毎日2時間以上（週休日、祝祭日も含め平均して）
後期課程：　毎日3時間以上（週休日、祝祭日も含め平均して）

＜結果＞　学校評価アンケートにおける学習時間調査
前期課程：毎日2時間以上31％（1年38％、2年19％、3年36％）
後期課程：毎日2時間以上68％（4年64％、5年62％、6年79％）

＜自己評価＞

家庭学習時間は6年生が長いのは当然ではあるが、後期生の平均は約20％伸びているのに対し、前期生の平均は約10％下がっている結果となった。後期課程では今後、学習の質についても上げていく必要がある。新型コロナ感染症拡大の状況下におけるオンラインでの学習やスタディ・サプリや教員の作成動画等の活用を効果的に取り入れることによって、あらためて家庭学習の大切さを理解させ、主体的に家庭学習を行う習慣を身に付けさせる工夫が必要である。

④【長期休業中の補習・講習】今年度はエアコンの取り換え工事の関係があり、校舎の使用が制限される中、従来どおり長期休業中の補習・講習を実施することができた。その中で多くの生徒が特定科目を集中して学び、不得意科目の補強等に活用した。

＜方策＞・生徒各自の学習カード、キャリアパスポート等を活用して、生徒各自の学力状況を的確に把握し、弱点を補強するように指導する。
・前期課程では、教科書レベルの内容を中心とするが、高校入試問題等も扱う。
・後期課程では、入試問題を分析し、大学受験を視野に入れた講座を開講する。

＜数値目標＞夏期休業　前期課程：　18講座以上　　延べ　150名以上参加
後期課程：　72講座以上　　延べ　1900名以上参加
冬期休業　前・後期併せ10講座以上　　延べ　100名以上参加
春期休業　前・後期併せ10講座以上　　延べ　100名以上参加

＜結果＞　後期課程については夏季休業に55講座を開講し、1800名参加した。
前期課程については、各学年で教科ごとに対象生徒を指名するなどして補講を実施した。

＜自己評価＞

今年度はエアコンの工事があり、校舎の使用が制限される中、調整に時間がかかり、夏季講習の案内が例年より遅くなった。また、予備校の講習との兼ね合いから、学校の講習ではなく予備校の講習を選んだ生徒もいた。来年度は通常通りに夏季講習を5月上旬に発表し、効率よく講座を選ぶことができるように進めていく。

⑤【読書指導】読書の習慣を身に付け、深い思索が行える力の養成に努めた。

＜方策＞・本校の図書館その他を有効に活用する。
・8月に読書月間を設定するほか、適宜、読書指導や啓発活動を行う。

＜数値目標＞　1人年間20冊以上（雑誌、ゲーム攻略本の類は含まない）

＜結果＞　図書館での貸出冊数　年間15463冊（一人当たり16．5冊）
（1年5074冊、2年5887冊、3年1395冊、4年1932冊、5年762冊、6年413冊）

＜自己評価＞

今年度は例年通りに1年生が図書館をよく利用した。今後も引き続き、生徒の身近なところに図書がある環境を整備し、生徒が読書に親しむ取組を継続する。

⑥【授業改善】生徒の学力向上を図るため、常に授業改善に努めた。

＜方策＞・研修センターの専門研修受講、予備校等主催の研修・講習の受講
・入試問題の分析、日常の授業への導入等教材研究を不断に行う。
・教師道場や若手研修、公開授業等を利用して授業研究を行った。

＜数値目標＞学校評価アンケートで、授業満足度　平均90％
全教員が年度で、2回以上相互授業見学

＜結果＞生徒による授業評価において、ほとんどの科目で肯定的回答80％以上

学校評価アンケートでの学習指導方針満足度　平均96％
（1年98％、2年96％、3年94％、4年92％、5年97％、
6年98％）

＜自己評価＞

今年度は全学年の授業評価が高かった。オンラインによる学活、ホームルーム、授業での丁寧な対応、授業動画を作成し YouTube にあげて生徒に視聴させるなどの工夫をしたことによって、学校の学習指導に対しての満足度が上昇したものと考えられる。

一方、個別に対応した学習に対しての評価については、特定の学年で否定的な意見の割合が高く、特に4年生では昨年度に引き続き、43％（昨年度36％）の生徒が否定的に考えている。保護者も46％が個別に対応した学習に否定的に考えていることからも、家庭との連絡を密にしながらの生徒一人一人への指導が必要であることが明らかである。

⑦【部活動】学年間を越えて共に活動することで、連帯感をはぐくみ、豊かな人間性の形成を目的に今年度も計画をしたが、新型コロナ感染症拡大の状況下であったためほとんど成果を上げることができなかった。

＜方策＞・切り替えを上手に行い、時間にメリハリを付けて有効に使う。
・部活動で身に付けた集中力を駆使して、学習を効率よく進める。

＜数値目標＞　部活動加入率　前期課程　98％以上　　後期課程81％以上
休養日の設定　前期課程　週2日以上　　後期課程週2日以上

＜結果＞部活動加入率　前期課程　90．9％　　後期課程79．0％
休養日の設定　前期課程　週2日以上　　後期課程週2日以上

今年度は活動や大会は制限されたが、1年間活動を継続することができた。来年度部活動は、都教委や国体連、高文連の指示に従い、制限がある中での活動となる可能性もあることから、少しでも生徒にとって有益な活動となるように、方法を工夫していきたい。

・弓道部

＜前期課程＞

関東中学校弓道大会（8月・宇都宮市）　男女団体出場
東京都中学校弓道大会（1月）女子団体優勝

＜後期課程＞

関東高等学校弓道大会（6月・前橋市）女子団体ベスト8　女子個人第5位
国民体育大会関東ブロック大会（7月・宇都宮市）
全国総体（8月・新潟県上越市）　男女個人出場　男子個人第8位
関東高等学校弓道個人選手権選抜大会（9月・東京）男子個人第7位
全国高等学校弓道選抜大会（12月・水戸市）女子個人出場
東日本高等学校弓道大会（3月・甲府市）男子団体出場

・日本文化（かるた班）

第43回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会　東京都第4位
第45回全国高等学校総合文化祭　わかやま総文　東京都代表　東京優勝
第28回関東地区高等学校小倉百人一首かるた大会　東京代表
第17回全国高校生かるたグランプリ　東京都選抜チーム東京都選抜優勝

・科学部

東京都理科研究発表会にて　最優秀賞(東京都総合・化学部門第1位）受賞
→来年度の全国高等学校総合文化祭(東京総文)出場内定
生物学オリンピック　9名出場うち1名が本選出場「銅賞」受賞
化学グランプリ　6名出場うち2名が「日本化学会関東支部奨励賞」受賞
科学の甲子園東京都大会　総合 10 位

⑧【広報活動・地域交流】新型コロナ感染症拡大の状況下であることから、生徒募集、広報活動において大幅な制限がかかった1年間であった。また、公開講座や学校開放事業についても、感染の未然防止の観点から実施を見送った。

＜数値目標＞適性問題等解説会参加者：1600名以上
学校紹介日参加者　　：2000名以上
出願等説明会参加者　：1300名以上

適性検査受検の応募倍率:7.5倍以上
ホームページへの年間アクセス数:50万件
「めぐろシティカレッジ」:4講座各16回程度の施設開放
公開講座「スペイン語講座(初級)」: 受講者20名以上

＜結果＞ 適性検査の応募倍率:5.2倍 受検倍率:4.81倍
ホームページへの年間アクセス数:約46万件
適性問題等解説会等はオンラインで実施
「めぐろシティカレッジ」:コロナのため開講せず。
公開講座:コロナのため開講せず。

＜出席者＞適性問題等解説会:オンライン(YouTube)で実施した。
学校紹介:対面で2回実施した。
個別相談会:オンライン(Zoom)で合同説明会に参加して実施した。

＜自己評価＞

新型コロナ感染症拡大の状況下にあって、広報活動をどのように行うかが課題であった。学校紹介の動画を作成し、YouTube にアップし、URL をホームページに掲載する方法や、オンラインの学校紹介行事を実施するお知らせをホームページに掲載し、電子メールで申し込みを受け付け、自動返信でオンラインの URL を返信するなどの広報の方法を実施した。隔年で募集倍率は上下するが、今年度は募集倍率が本校始まって以来の最低であった。

オンラインを活用した新しい広報活動については来年度も継続して実施し、来校して施設や授業を見学してもらう方法と併用していくことが、より効果的な生徒募集につながっていくと考えられる。

2 次年度の取組事項等

(1)進路指導の向上

進路指導部と学年の連携を深め、各生徒の状況把握や指導方針等を明確にし、志望校検討会をはじめとしてあらゆる機会に教科担当にも情報提供し、教科指導体制の強化に取り組む。自学自習の環境を整備し、生徒の学習を支援する。文系難関国公立大の志願者が増加するように、教育課程の見直しや補修等も検討する。

進路指導部内に、国際理解教育推進班を設置し、国際理解教育の推進に向けて組織的に取り組み、海外大学進学を希望する生徒への支援体制を確立し、奨学金を獲得する方法や大学受験の方法など指導し、外部機関とも連携し、海外大学を希望する生徒の進路を実現する。

(2)授業力向上

これからの時代に即した授業の在り方を、引き続き授業の在り方研究委員会で検討していく。コロナが収束し、オンライン学習のスキルを全教職員で共有することができているので、今後は新学習指導要領に基づいた教育課程の周知、徹底と、観点別評価を適正に実施できるよう教員研修等で周知する。また、高大接続改革に基づく大学入試改革に対応した授業の在り方を研究していく。

進学指導対策の自律経営推進予算を活用して資料を充実させるとともに、今後も予備校主催の研修や研修センターの専門研修に教員を参加させて授業力の向上を図る。

(3)スクール GIGA 構想への対応

全教室のWi-Fi化、前期生徒へのタブレットPC貸与に対応した授業の新しい取組を検討、実践するとともに、後期課程4年生から生徒一人1台端末購入に備えた ICT を活用した授業改善のための教員研修を実施する。今年度も引き続き、文部科学省の電子教科書使用の試行に取り組みながら、生徒にとって学力の向上につながる使用方法を検討する。

(4)生活指導の充実

生活指導は、あらゆる教育活動の基礎であるとの認識に立って、生徒が自治会や委員会を通して自主的に、遅刻防止、チャイム始業、あいさつの励行、制服の適正な着用、登下校のマナーの徹底、自転車走行のマナー向上、貴重品の管理の徹底等を呼びかけ、推進する。特に、SNS学校ルール(マナー)に基づき、家庭の協力も得て情報モラルを徹底させる。

引き続き、自転車通学者全員の保険加入が義務付けになったことから、その意義を生徒、

保護者に徹底し適正にステッカー発行ができるように取り組む。
(5)広報活動の拡大・充実
　オンラインでの学校説明と、実際に学校に来てもらって学校を紹介する行事との併用を行い、効率的、組織的に広報活動を進めていく。
　ホームページは、ますますその重要性を高めていることから、リニューアルし、内容の充実に取り組む。昨年度英語によるスクールプロファイル(学校紹介)を掲載したため、来年度は学校案内の英語概要版を作成し、海外からの検索も視野に入れて、学校紹介を行っていく。
(6)国際理解教育・国際交流の進展
　進路指導部内に国際理解教育推進班を設置し、国際理解教育・国際交流を組織的に推進していく。また、海外大学進学者が毎年出ていることから、外部機関と連携した、海外大学進学の情報提供を継続する。
　新型コロナ感染症の状況に合わせて、中断している国際理解教育や国際交流の再構築や新規事業の立ち上げを図っていく。
(7)施設・学習環境の改善
　A棟、B棟東側など老朽化した施設の改善を引き続き要望する。また、支援が必要な生徒が安全に学校生活を送ることができるように、施設・設備の整備を進めていく。教室、廊下、階段、トイレなどの特別清掃作業を計画的、重点的に行う。